

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 5 月 27 日現在

機関番号：32620

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20H04131

研究課題名（和文）メンタルヘルス不調の予防に関わる総合的支援システムの構築

研究課題名（英文）Development of the support system for preventing mental health disorder

研究代表者

竹中 晃二（Takenaka, Koji）

順天堂大学・大学院スポーツ健康科学研究科・客員教授

研究者番号：80103133

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,600,000円

研究成果の概要（和文）：近年人々に蔓延るメンタルヘルス問題（疾患を含む）は、個人、家族、組織、そして社会において大きな負担となっており、解決しなければならない喫緊の課題である。先進諸国においては予防措置に関わる具体的介入が地域、職域、学校において行われ、さらに予防を超えるプロモーション活動も実践されている。本研究では、様々な人々を対象に、メンタルヘルス不調に導く前駆段階である心理的状態「なんとなく憂うつな気分」を改善させることを目的に、気分改善への役立ち度および実践可能性の高い予防的自助方略の内容を選定し、予防的自助方略実践の習慣化に関わる動機づけの強化、および行動実践に結びつける実践強化それぞれの方法を検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現在、人々の間で心身の不調が原因とする行動阻害による影響、例えば遅刻、早退、欠勤、休職など「アブセンティズム」が見られており、一方で職場に出勤しているにも拘らずケアレスミスが多発したり、作業効率や集中力の低下を引き起こすプレゼンティズムも生じている。しかし、このように「なんとなく憂うつな気分」で例えられるメンタルヘルス不調を抱える人々は、専門施設での支援を受けてはならず、このような状態が進めば精神疾患に発展することが予想される。本研究ではメンタルヘルス不調の予防的介入として、自助方略を用いた行動変容型支援システムを開発した。

研究成果の概要（英文）：Mental health problems (including diseases) are a major burden on individuals, families, organizations, and society, and are an urgent issue that must be resolved. In developed countries, in addition to symptomatic treatment provided by specialists, specific interventions related to preventive measures are being carried out in the community, workplace, and school, and promotional activities that go beyond prevention are also being put into practice. In this study, we aimed to improve the psychological state of “somehow depressed mood”, which is a precursor stage to mental health disorders, in a variety of people. The aim is to disseminate and enlighten the practice of preventive self-help strategies by selecting the content of preventive self-help strategies, strengthening motivation related to making the practice of preventive self-help strategies a habit, and examining methods for reinforcing practices linked to behavioral practice. A comprehensive support system was developed.

研究分野：健康心理学

キーワード：メンタルヘルス・プロモーション 予防 メンタルヘルス不調 ポジティブ・メンタルヘルス

1. 研究開始当初の背景

近年、精神障害などが関係する労災請求件数や認定件数は大きく増加しており、自殺を含め、心の病による休職・離職・休学の増加は大きな社会問題となっている。重篤なメンタルヘルス問題とは別に、軽度であってもメンタルヘルス不調は経済的損失を生んでいる。そのため、メンタルヘルス不調になる前に、いかに効果的な「予防」をおこなうことができるかが重要な備えとなる。しかし、実際には、メンタルヘルス不調に陥った者に対して、専門家が治療・再発防止を担う三次予防、また近年、職場に導入された勤労者の仕事環境の整備を目的としたストレスチェック制度が中心で、効果を十分にあげるほどの一次予防やそのプロモーション活動は行われていない。そのため、メンタルヘルス関連の問題が生じ始める前に生じる些細な初期症状としての「気分の不調」を前駆症状ととらえ、早い段階で人々に対して自助介入できる方策を学ばせ、日常生活で習慣化させる必要がある(竹中, 2018; 2019)。

2. 研究の目的

メンタルヘルス問題の予防に果たす自助方略とは人々がメンタルヘルス問題に対処したり、症状を緩和するためにおこなう、自身による活動を指す。精神疾患という診断を受けない閾値下、または亜臨床的なメンタルヘルス不調を抱える対象者に対しては、自助方略の実践が症状軽減のために有効である。本研究では、重篤なメンタルヘルス不調が際立つ若年・中年勤労者を対象に、メンタルヘルス不調に導く前段階の心理的状態「なんとなく憂うつな気分」を改善させることを目的に、まずは気分不調時において役立ち度および実行可能性が高い自助方略を選定し、それらの内容をもとにして、人々に自助方略の実践を動機づけ、しかも習慣化に結びつける手立てを明確にし、最終的に自助方略実践の普及・啓発についての総合的支援システムを構築する。以上により、喫緊の課題である若年・中年勤労者のメンタルヘルス問題の予防に大きく貢献したい。

3. 研究の方法

(1) デルファイ法による自助方略の検討：予防効果が期待できる自助方略とは、閾値下の抑うつ・不安気分(診断基準に満たない、少なくとも2週間続くような抑うつ・不安気分)の緩和・改善を目的とし、その役立ち度および実行可能性を備えた活動である。本研究では、あらかじめ書籍、論文、雑誌、web記事などから判断なしに気分改善のために推奨されている自助方略を収集し、専門家を通してカテゴリーごとに整理をおこなった後、精神疾患の専門家グループ(精神科医、産業医、臨床心理士、精神保健福祉士)および一般成人、のそれぞれ50名からなる2パネル・グループを対象に、グループの意見を数回の繰り返し調査(デルファイ法)を実施した。

(2) 実行意図手法による実践：上記で選定された自助方略を選択肢として採用し、若年・中年勤労者を対象に、日常生活および勤務時において実行しやすい内容および効果を年齢層および性に分けて調べた。また、これらの自助方略の行動変容介入として、実行意図手法(イフ・ゼン・プラン：図1)を適用し、ゼン活動としての自助方略に適合しやすいイフ(状況)との組み合わせについて行動の継続程度およびその後の気分症状の改善度を検証した。また、これらの組み合わせ介入を新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴うストレス緩和に適用できるか否かを一般成人および医療従事者を対象に調べた(コロナ禍で実施した介入ポスター：図2)。



図1.イフ・ゼン・プランシート



図2. コロナ禍で実施したイフ・ゼン・プラン介入ポスター

4. 研究成果

(1) デルファイ法による調査結果：デルファイ法の調査によって、気分の不調を改善することを目的とした自助方略の選定を行い、役立ち度としては両パネル・グループの構成員がお互いの70%が気分の不調改善に役立つと是認する自助方略をリストアップし、その後気分の不調時でさえも実行可能な自助方略について両パネル・グループが70%是認する内容を予防的自助方略のリストを示した。以上の作業を経て、さらに若年・中年勤労者を対象に、日常生活及び勤務時において実行可能性を確認し、気分の不調改善に役立つ、しかも実行可能な自助方略として推奨できる年齢層および性別の推奨リストを決定した。

(2) 実行意図手法による実践：行動変容の一手法である実行意図手法、すなわちイフ部分とゼン部分を組み合わせによる自己介入によるメンタルヘルスへの効果を検証した。また、コロナ禍においてメンタルヘルスをよい状態に整えることを目的に、一般人およびの医療従事者を対象としたポスターを制作し、実践による効果を検討した。その結果、一般人、医療従事者ともポスターによる介入の効果を実感していた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計28件（うち査読付論文 22件／うち国際共著 8件／うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 Shimazaki, T., Iio, M., Uechi, H., & Takenaka, K.	4. 巻 9
2. 論文標題 Emotional experiences of reading health educational manga encouraging behavioral changes: a non-randomized controlled trial	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Health Psychology and Behavioral Medicine	6. 最初と最後の頁 398, 421
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/21642850.2021.1921583	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Matsumoto, H., & Takenaka, K.	4. 巻 16
2. 論文標題 Relationship between basic psychological needs and exercise motivation in Japanese adults: An application of self-determination theory	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Japanese Psychological Research	6. 最初と最後の頁 1, 12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jpr.12336	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 上地広昭・島崎崇史・竹中晃二	4. 巻 16
2. 論文標題 外出自粛期間中のメンタルヘルス改善のためのアプリケーションの試験的運用	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ストレスマネジメント研究	6. 最初と最後の頁 50, 51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹中晃二・上地広昭・Ong Wei Ling, 石川菜々子・佐藤ちはる	4. 巻 18
2. 論文標題 感情調整および行動変容技法を用いたパワハラ防止リーフレットの開発	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ストレスマネジメント研究	6. 最初と最後の頁 2, 7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺紀子・竹中晃二	4. 巻 36
2. 論文標題 訪問介護員の離職意図に及ぼすコミュニケーション能力と心理社会的要因	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 産業・組織心理学研究	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺紀子・島崎崇史・竹中晃二	4. 巻 34
2. 論文標題 訪問介護員を対象としたコミュニケーション能力尺度の開発	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Health Psychology Research	6. 最初と最後の頁 39, 50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11560/jhpr.201211145	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上地広昭・堀内 聡・岩野 卓・島崎崇史・竹中晃二	4. 巻 17
2. 論文標題 行動経済学に基づくライフスタイル改善のためのアプローチ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ストレスマネジメント研究	6. 最初と最後の頁 35, 40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中山毅・吉田椋・竹中晃二	4. 巻 17
2. 論文標題 Webスピーチ課題におけるストレス関連症状の緩和を目的としたVolitional Help Sheetの開発および実行可能性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ストレスマネジメント研究	6. 最初と最後の頁 38, 53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹中晃二	4. 巻 76
2. 論文標題 メンタルヘルスクエア入門～いまこそ予防措置に目を向けるとき～	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 保険診療	6. 最初と最後の頁 3, 11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹中晃二	4. 巻 10
2. 論文標題 メンタルヘルス不調の予防を目的としたセルフケア活動実践のすすめ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 看護	6. 最初と最後の頁 76, 81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Noda, T., Nagaura, H., Tsutsumi, T., Fujita, Y., Asao, Y., Matsuda, A., Satsuma, A., Nakanishi, M., Ohnishi, R., & Takemori, M.	4. 巻 6
2. 論文標題 A cross-sectional study of the psychological impact of the COVID-19 pandemic on undergraduate and graduate students in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Affective Disorders Reports	6. 最初と最後の頁 100282
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jadr.2021.100282	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Noda, T., Nagaura, H., Tsutsumi, T., Fujita, Y., Asao, Y., Matsuda, A., Satsuma, A., Nakanishi, M., Ohnishi, R., & Takemori, M.	4. 巻 9
2. 論文標題 A Study of the Relationship between Psychological Impact of COVID-19 Pandemic and Addictive Behaviors in University Students in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Addiction & Addictive Disorders	6. 最初と最後の頁 82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24966/AAD-7276/100082	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 野田哲朗	4. 巻 36
2. 論文標題 学校における重大事案を調査する第三者委員会委員としての精神科医の役割	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 精神科治療学	6. 最初と最後の頁 793, 797
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山蔦圭輔・三浦佳代・竹中晃二	4. 巻 12
2. 論文標題 医療従事者の職場状況とワーク・エンゲイジメントとの関連性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 心理相談研究	6. 最初と最後の頁 65, 77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山蔦圭輔	4. 巻 59
2. 論文標題 COVID-19 状況下における医療従事者のバーンアウトとストレス	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本医療・病院管理学会誌	6. 最初と最後の頁 56, 67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shimazaki, T., Iio, M., Uechi, H., & Takenaka, K.	4. 巻 9
2. 論文標題 Emotional experiences of reading health educational manga encouraging behavioral changes: a non-randomized controlled trial	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Health Psychology and Behavioral Medicine	6. 最初と最後の頁 398, 421
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/21642850.2021.1921583	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Shimazaki, T., Uechi, H., & Takenaka, K.	4. 巻 9
2. 論文標題 Mental health promotion behaviors associated with a 6-month follow-up on job-related mood among Japanese workers	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Perspectives in Psychology: Research, Practice, Consultation	6. 最初と最後の頁 48, 64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1037/ipp0000120	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 竹中晃二・上地広昭・吉田 椋	4. 巻 33
2. 論文標題 イフ・ゼン・プランを用いたメンタルヘルス・プロモーション活動の行動変容介入：準実験的研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Health Psychology Research	6. 最初と最後の頁 67, 79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11560/jhpr.200508140	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 竹中晃二・上地広昭・綾田千紘	4. 巻 16
2. 論文標題 教員における仕事関連イベントが誘発する気分不調の改善 イフ・ゼン・プランの適用	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ストレスマネジメント研究	6. 最初と最後の頁 20, 33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsui, T., Hirai, K., Gondo, Y., & Sato, S.	4. 巻 50
2. 論文標題 Understanding help-seeking behaviour in relation to psychosocial support services among Japanese cancer patients	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Japanese journal of clinical oncology	6. 最初と最後の頁 1175, 1181
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jjco/hyaa086	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Matsui, T., Hirai, K., Gondo, Y., & Sato, S.	4. 巻 29
2. 論文標題 Examination of factors contributing to help seeking behavior in accessing psychosocial support services among Japanese cancer patients: An application of the segmentation approach	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Psycho-Oncology	6. 最初と最後の頁 1905, 1916
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/pon.5523	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 北村 智稀, 野田 哲朗	4. 巻 35
2. 論文標題 児童期の逆境体験(ACE)が青年期以降のメンタルヘルスに及ぼす影響についての横断的研究: 嗜癮傾向に着目して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ストレス科学	6. 最初と最後の頁 88, 96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野田哲朗	4. 巻 40
2. 論文標題 【コロナ禍の今だから知っておきたいこころの不調】アルコール使用障害	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ナーシング	6. 最初と最後の頁 44, 52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野田哲朗	4. 巻 35
2. 論文標題 【トラウマ臨床の新しい動向と広がり】トラウマ関連病態の精神鑑定	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 精神科治療学	6. 最初と最後の頁 643, 648
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野田哲朗	4. 巻 58
2. 論文標題 自衛隊員のストレス・メンタルヘルスに関する文献研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 兵庫教育大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山蔦圭輔	4. 巻 11
2. 論文標題 過食嘔吐を呈する女子大学生に対する心理的支援 対人関係療法と認知行動療法を用いた自分を認めるプロセス	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 心理相談研究	6. 最初と最後の頁 43, 57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山蔦圭輔	4. 巻 11
2. 論文標題 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) と心理的支援 医療従事者に対する相談業務	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 心理相談研究	6. 最初と最後の頁 33, 41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山蔦圭輔・葦原摩耶子	4. 巻 30
2. 論文標題 摂食障害予防のための基礎的研究 女子大学生の身体部位不満足感と食行動異常との関連性 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人間生活文化研究	6. 最初と最後の頁 997, 1003
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.9748/hcs.2020.368	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計18件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 野田 哲朗, 黒岡 紀久子, 辻本 土郎
2. 発表標題 Alcoholis Anonymousに参加してPTSD症状が改善した1例
3. 学会等名 アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 永浦 拓, 藤田 益伸, 堤 俊彦, 野田 哲朗, 中西 愛, 富美 司
2. 発表標題 コロナ禍における大学生のゲーム依存傾向と関連要因：経時的变化に着目して
3. 学会等名 アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 野田 哲朗, 堤 俊彦, 永浦 拓, 藤田 益伸
2. 発表標題 コロナ禍における学生の嗜癖行動習慣の変化と逆境的小児期体験の影響
3. 学会等名 アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Matsui, T., & Taku, K.
2. 発表標題 Relationship between posttraumatic growth and help-seeking behavior in use of psychosocial support services among cancer patients
3. 学会等名 The 22nd International Psycho-Oncology Society World Congress of Psycho-Oncology (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Matsui, T., Ishioka, Y., Yasumoto, S., & Gondo, Y.
2. 発表標題 The secrets of longevity in Japanese centenarians: A qualitative study
3. 学会等名 32nd International Congress of Psychology (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Matsui, T.
2. 発表標題 The need for support in engaging in physical activity among patients with cancer in Japan
3. 学会等名 The 35th annual conference of the European Health Psychology Society (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 竹中晃二・上地広昭・山鷲圭輔・島崎崇史・松井智子
2. 発表標題 COVID-19発生に伴うメンタルヘルス・プロモーション活動の普及啓発
3. 学会等名 日本ヘルスコミュニケーション学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 竹中晃二
2. 発表標題 コロナ禍におけるメンタルヘルス・プロモーション活動の普及啓発
3. 学会等名 日本健康心理学会第33回大会シンポジウム：新型コロナウイルス感染症への対策に関する情報提供：健康心理学からのアプローチ（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 竹中晃二
2. 発表標題 メンタルヘルス・プロモーション：ポジティブ・メンタルヘルスを育てる
3. 学会等名 日本健康心理学会第33回大会研修会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 竹中晃二
2. 発表標題 メンタルヘルス・プロモーション：「こころのABC活動」でポジティブなこころを育てる
3. 学会等名 日本ストレスマネジメント学会研修会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 永浦拓・藤田益伸・大西怜香・堤 俊彦・竹森未来・中西愛・野田哲朗・松田彩音・薩摩篤潤・浅尾 祐亮
2. 発表標題 COVID-19と大学生のメンタルヘルス 感染リスクの認知の差に着目して
3. 学会等名 全国大学保健管理研究集会第58回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 堤俊彦・竹森未来,・中西愛・松田彩音・薩摩篤潤・野田哲朗・浅尾祐亮・永浦拓・藤田益伸・大西怜香
2. 発表標題 COVID-19が大学生に及ぼすメンタルヘルスの影響：ストレス因のデータマイニング分析
3. 学会等名 全国大学保健管理研究集会第58回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松田彩音・薩摩篤潤・野田哲朗・浅尾祐亮・堤俊彦・竹森未来・中西愛・永浦拓・藤田益伸・大西怜香
2. 発表標題 COVID-19と大学生のメンタルヘルス：生活習慣への影響
3. 学会等名 全国大学保健管理研究集会第58回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 野田哲朗・松田彩音・薩摩篤潤・浅尾祐亮・永浦拓・藤田益伸・大西怜香・堤俊彦・竹森未来・中西愛
2. 発表標題 COVID-19が学生のメンタルヘルス・嗜癖習慣に及ぼす影響
3. 学会等名 日本アルコール・薬物医学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤田益伸・永浦拓・松田彩音・薩摩篤潤・浅尾祐亮・大西怜香・竹森未来・中西愛・堤俊彦・野田哲朗
2. 発表標題 COVID-19感染症拡大状況下におけるエナジードリンクおよび間食の摂取習慣とストレス対処との関連
3. 学会等名 日本アルコール・薬物医学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 永浦拓・藤田益伸・松田彩音・薩摩篤潤・浅尾祐亮・大西怜香・竹森未来・中西愛・堤俊彦・野田哲朗
2. 発表標題 インターネットゲーム障害スケール日本語版の因子構造：逃避型依存モデルに基づいた検討
3. 学会等名 日本アルコール・薬物医学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山蔦圭輔
2. 発表標題 医療現場の実際と必要とされる支援とこれから
3. 学会等名 日本健康心理学会第33回大会シンポジウム：新型コロナウイルス感染症への対策に関する情報提供 健康心理学からのアプローチ（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山蔦圭輔
2. 発表標題 摂食障害の認知行動療法と公認心理師
3. 学会等名 第20回日本認知療法・認知行動療法学会大会シンポジウム：公認心理師の診療報酬と認知行動療法（招待講演）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 高遠菜穂子、細淵富夫、中村江里、蟻塚亮二、五十嵐善雄、田村修、布施祐仁、佐々木あずさ、福浦厚子、野田哲朗	4. 発行年 2021年
2. 出版社 あけび書房	5. 総ページ数 226
3. 書名 自衛官と家族の心をまもる：海外派遣によるトラウマ	

1. 著者名 飯村周平・松井智子・宅香菜子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 風間書房	5. 総ページ数 221
3. 書名 ゲーム感覚で身につく論文執筆「今よりもっと論文を書く」と決めた研究者へ	

1. 著者名 松井智子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 251
3. 書名 がん患者が求めているものとは？」 佐藤真一編著 『心理老年学と臨床死生学心理学の視点から考える老いと死』	

1. 著者名 山蔦圭輔	4. 発行年 2020年
2. 出版社 誠信書房	5. 総ページ数 251
3. 書名 日本心理療法統合学会（監修）杉原保史・福島哲夫（編）：心理療法統合ハンドブック：エビデンスに基づく実践とクライアントに合わせた治療の選択	

1. 著者名 山蔦圭輔・本田周二	4. 発行年 2020年
2. 出版社 南山堂	5. 総ページ数 153
3. 書名 メディカルスタッフのための基礎からわかる人間関係論	

1. 著者名 竹中晃二	4. 発行年 2022年
2. 出版社 集英社新書	5. 総ページ数 192
3. 書名 ヤング中高年 人生100年時代のメンタルヘルス	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<http://npo-kenko-shinri.jp/>

早稲田大学応用健康科学研究所ホームページ (<http://takenaka-waseda.jp/>) より移設

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	野田 哲朗 (NODA Tetsuro) (00769979)	大阪人間科学大学・心理学部・教授 (34435)	
研究分担者	松井 智子 (MATSUI Tomoko) (40845062)	大阪大学・人間科学研究科・助教 (14401)	
研究分担者	山蔦 圭輔 (YAMATSUTA Keisuke) (80440361)	神奈川大学・人間科学部・准教授 (32702)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------